

2018年度 センター試験 地理B (本試験) ワンポイント解説

第1問	問1	Bは古期造山帯のドラケンスバーグ山脈で、火山は見られない。
	問2	湖面標高と地溝帯という成因から「ウ」は死海、氷食谷から「ア」はレマン湖と判断できる。
	問3	Fの土壌はチェルノーゼムで、肥沃な黒色土壌である。
	問4	①の冬季の豊富な降水が誤り。ただし、これに気付けなくても②～④は文章と図を照らし合わせればすべて正しいことがわかるので正答できる。
	問5	過耕作、過放牧は砂漠化の原因となる。
	問6	赤道付近の地域に吹く風であるので、貿易風である。また、図中で赤道付近は「高温・多雨」となっているため、洪水と判断できる。
第2問	問1	リチウムの生産量に関する知識がなくても解答できる問題。ボーキサイトの生産上位国にはオーストラリアの他、ギニア、ジャマイカがあり、それが含まれる地図は「ア」である。次に、特許出願件数の多い国は先進国であると考えられるため、「イ」と判断できる。
	問2	九州の人件費が安価であるという内容から、半導体生産の立地は労働力指向であることがわかる。また、半導体が小型軽量であることから、生産費に占める輸送費の割合は小さいと判断できる。
	問3	ドイツのルールはルール炭田の石炭をもとに発展した工業地域である。①はサードイタリア、大学や研究所から独立したベンチャー企業が多い②はシリコンヴァレー、輸出加工区の記述がある④はシンガポールである。
	問4	2000年以降に割合が増加している②は、この時期に経済発展をしたアジアであると判断する。
	問5	遺伝子組み換え作物は自給的農業ではなく、商業的農業が盛んな国で導入が進んでいる。
	問6	情報関連サービス業は大都市域に集中するため「ス」と判断する。また、北海道、東北、九州などで比率の高い「シ」は農業関連サービス業であると判断できる。
第3問	問1	候補の国の中で、カトリックが多数を占める国はフランスとポーランド、正教はギリシャであるので、残った②がドイツとなる。ポーランドはスラブ民族の国であるが、宗派は正教ではなくカトリックが多数を占める。
	問2	各地域の気候に対応して衣服の特徴が生まれることを考える。「ア」は南米、「イ」は東南アジア、「ウ」は西アジアである。
	問3	マレー系住民に対して雇用や教育面で優遇する制度はブミプトラ政策で、マレーシアで経済的に力を持っているのは中国系住民である。
	問4	都市人口率は南米を除いて一般的には先進国で高い傾向にあり、②④は除外できる。次に、首位都市の総人口に占める割合は、インドとバングラデシュの総人口を考えれば、①がインドで②がバングラデシュであるとわかる(もし③がインドとすると、最大の都市の人口が1億人を超えることになってしまう)。
	問5	城の近くのBは古くから発展していた地域であるので②であるとわかる。次に国道に面しているDは④であるとわかる。比較的新しい時代に発展したとされる①③のうち、商業施設や銀行などが並ぶと書かれている③は駅前のCであると判断できる。
	問6	Xは都心で地価が高く一戸当たりの面積が小さいため、「ス」であるとわかる。Yは郊外の戸建住宅地であるため子供の多い「サ」、Zは森林、農地であるため、高齢者比率の高い「シ」であると判断できる。
第4問	問1	「エ」は世界の屋根(天井)とも呼ばれるパミール高原である。
	問2	コーヒーは比較的多雨の熱帯地域で生産されるため、誤り。
	問3	まず、イスラム教徒が圧倒的多数を占める①はイラン、ユダヤ教徒が多数を占める④はイスラエルであるとわかる。残る②③については、アラブ首長国連邦が出稼ぎ労働者が多く多様な宗教が見られること、レバノンではキリスト教徒も多くみられることから判断できる。
	問4	サウジアラビア、クウェートで高位となっている「キ」は石油・石油製品であるとわかる。続いて、イスラエルが高位となっている「カ」が1人当たりGNIであると判断できる。
	問5	年間訪問者数が多く、日本からの直行便も多い①がトルコであるとわかる。日本からの直行便がないが、一定数の訪問者数が見られる②は聖地メッカへの巡礼者があるサウジアラビアである。④は政情不安定であるために日本との直行便がないイラクである。
	問6	「サ」は2001年の同時多発テロをきっかけに戦闘が行われたZのアフガニスタン、「シ」はトルコ系とギリシャ系の対立という記述からXのキプロス、「ス」はイラクに侵攻を受け、アメリカを中心とする多国籍軍が介入したYのクウェートである。

第5問	問1	安定陸塊地域で低地が多いフィンランドが「ア」であるとわかり、偏西風および北大西洋海流の影響で年較差が小さいノルウェーが「ウ」であると判断できる。
	問2	ノルウェーはスカンディナビア山脈を背景に、電力のほとんどを水力発電で賄っている。スウェーデンも同様にスカンディナビア山脈をもち水力発電が盛んであるが、国策として原子力発電も併用している。起伏の小さなフィンランドでは水力発電の比率は低くなっている。
	問3	図4から「原燃料と燃料」の比率が高い「ス」が産油国のノルウェーであると判断する。図4では「サ」と「シ」の区別は困難であるため、表1から輸出相手国の上位国にロシアが入る「サ」はフィンランドであると判断できる。
	問4	アニメーションについては、「バイキング」をヒントに、「チ」はノルウェーであると判断する。北欧三国の言語は、ノルウェーとスウェーデンはゲルマン系言語であるが、フィンランド語はウラル系言語であるため、スウェーデン語とノルウェー語は類似性が見られると考え、Aがノルウェー語であるとわかる。
	問5	北欧が高い税率のもと、高福祉政策を実施していることを考えれば解答できる。問題文の難しさに惑わされないようにしたい。
第6問	問1	北陸地方は冬季の日照時間が短いため、「イ」は富山であるとわかる。逆に太平洋側は日照時間が長いため、「ア」は浜松市であると判断できる。
	問2	文章と図を照らし合わせれば解答できる問題。平均世帯人員数は中心部で低位となっているため、③は逆である。
	問3	文章をよく読めば知識がなくても正答できる。「キ」の名古屋、松本の判断は「職員」の2回目の発言にある「標高1000mを超える山脈を越え、海の魚を食べることが困難な地域にも運ばれていました」から判断できる。図1中に乗鞍岳が示されていることもヒントである。
	問4	苔川に並行する幹線道路では工業団地は見られない。
	問5	岐阜県全体の日帰り客数は3,731万人に対し、高山市約210万人で、宿泊客数は県全体で629万人に対して高山市は約130万人となっているため、高山市は県の中では宿泊客比率が高いと言える。
	問6	山地帯では広葉樹林、亜高山帯は針葉樹林、高山帯はハイマツ地帯となっている。